

# 新潟県立長岡聾学校

QRコードも利用できます！

## きこえ通信

<https://nagaokarou.nein.ed.jp/>



新潟県立長岡聾学校通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町2-1-13

Tel 0258-38-0210 (通級指導教室)

\*18:00頃までお願いいたします。メールもご利用ください。

FAX 0258-39-5665

e-mail [school@nagaokarou.nein.ed.jp](mailto:school@nagaokarou.nein.ed.jp)

令和7年度 第9号 発行：令和8年1月

# 謹賀新年



旧年中は「きこえ通信」をお読みくださり、ありがとうございました。また、当通級の生徒保護者の皆様、生徒在籍校の先生方には大変お世話になり、ありがとうございました。今年も、きこえについて情報をお届けできるように努力して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 補聴器について



「聴覚障害教育  
これまでとこれから」より  
(脇中起余子：北大路書房)



難聴通級に通うほとんどの生徒が、補聴器を使用しています。補聴器は音を大きくしてくれる機械で、生徒たちは「なくてはならない」、「友達としゃべる時に絶対に必要」、「助けてもらっている」と大切に使っています。上記の漫画のような時にどうするか、聞いてみたところ「全部分かるわけではない。」、「小さい声や音は分からないこともある。」、「遠くから言われると分からないことがある。」などを書いていました。そのとおり、各自のきこえかたによっては、「あ」が「**あ**」、「**あ**」のようにゆがんだりぼやけたりしてきこえたりすることがあります。他には、後ろからまたは遠くから話されると、補聴器のマイクの位置に音がしっかり入らないため、何と言っているのか分からないことがあります。周囲の人は「補聴器を付けているから分かるはず」と思わずに、「きちんと聞こえるようにするにはどのよう  
に話そうか」と気遣っていただけるとありがたいです。研修に伺った学校の先生方には「前から」、「ゆっくり」、「一人ずつ」とお伝えいたしました。このようにして、コミュニケーションでの困り感をより少なくして過ごしてほしいと思います。また、メモなどの文字情報の活用も大切です。

補聴器はきこえにくい人にとっては大切なツールですが、精密機械であるためとても高価です。手帳のある人には障害者総合支援法による公的助成があります。手帳のない18歳未満の子どもたちには、10年ほど前から各市町村で独自の制度で補助を行っていただいています。最近、対象年齢が拡大した地域もあります。

## 合理的配慮について「ラストマン-全盲の捜査官」から学ぶ

「合理的配慮の申請や提供」については、生徒や在籍校の先生方と常々話し合っているところです。特に現在、高校入試や入学後の学校生活に向け、中3生徒は「きこえのトリセツ」や「補聴器を説明するなら」などを作成しています。最近再放送があった「ラストマン-全盲の捜査官」というドラマがあります。全盲の主人公の言葉「助けられて生きてきた」「テクノロジーのおかげです」などは、合理的配慮の提供が彼の活躍に寄与したことを示しています。「どなたか〇〇してくれませんか」と主人公が助けを求める場面も大切だと考えます。別れの場面で周囲の人が主人公に「**■□**です。お世話になりました」などと、一人ずつ名前を言い、誰の話かを分かりやすくする様子は、きこえにくい生徒のグループ学習への配慮とも通じるように思います。ドラマはフィクションではあり、現実には時間はかかるかも知れませんが、どの人もスムーズに「合理的配慮の申請や提供」ができるとよいと思います。

## ムンプス難聴について



最近、いろいろな感染症が流行していて心配になることが多いです。感染症の種類によっては、きこえに影響がある場合もあります。その中で、「ムンプス難聴」について紹介します。「ムンプス難聴」とは聞き慣れない言葉かも知れませんが、テレビの話題が続いて恐縮ですが、NHK 連続 TV 小説の「半分、青い」(2018年4月～)の主人公が、小さい頃に片方の聴力を失ったのが「ムンプス難聴」です。ムンプスとは耳下腺炎(おたふく風邪)のことです。感染したら全員が難聴になるわけではありませんが、ムンプス難聴には次のような特徴があります。

○ムンプス罹患後、片耳がきこえにくくなることが多いが、両耳の難聴もある。

○難聴は高度で、ほぼ完全失聴まで進行し、聴力は回復しない。

ここで、「片耳がきこえにくくなる」というところで気をつけるポイントがいくつかあると考えられます。

- 1 「片耳きこえていれば大丈夫」と思われがちですが、実は、いろいろな不自由な面があります。
- 2 小学生以下の子どもがムンプス難聴になった場合、片耳がきこえにくいことに気が付かないことがあります。
- 3 学校での健診の機会もありますが、見つかりにくい場合もあります。
- 4 きこえやすい方の耳の聴力を大切にしないといけません。定期的に医療機関等で聴力を確認する必要があります。また、聴力低下の原因と考えられること(イヤホンなどで大きな音を聞く、中耳炎や風邪などに罹患するなど)を避けることが望ましいと言えます。

ムンプスは非常に感染力が強いと言われています。「基本再生産数」は、感染のしやすさを表しています。(右図参照:富士病院小児科医のページより)

感染の予防には、予防接種が有効な手段の一つですが、日本ではあまり接種されていないようです。

基本再生産数	
ムンプス	11-14
新型コロナ	2-5
インフルエンザ	2-3
麻疹	16-21
風疹	7-9
水ぼうそう	8-10

以前の「きこえ通信」でもお知らせしましたが、当通級を利用する片耳難聴のある生徒で「きこえ友の会」を行ったときに、きこえ方の特徴や不便さ、効果のあった対応について多くの内容が話されました。その都度、聞いている生徒は大きくなずいていました。周囲の配慮で不便さ、不自由さが軽減されていることが分かりました。

片耳難聴の対応、他のきこえにくさなどについて、次のきこえ通信でお知らせします。

参照 HP: 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会、富士病院小児科医のページ



## 冬は、補聴器の調子が良いことが多い時期です！

冬は「気温が低い」、「外と室内の気温差がある」などの理由で補聴器内に結露が起きやすく、聞こえにくくなる場合があります。対応として家庭では「外したら必ず乾燥ケース(補聴器ケースではありません!!)に入れる」ことを実施してほしいと思います。乾燥剤を使う場合は青色であることを確認してください。ピンクになると交換が必要です。通級では、メンテナーという機械でメンテナンスを行い、補聴器を乾燥させます。また冬は電池の消耗が早いです。予備の電池を持ち、すぐに交換できるようにしましょう。